



# 加治丘陵だより

加治丘陵山林管理グループ

平成29年10月16日

## 創立15周年記念号

第 27 号

NPO法人

加治丘陵山林管理グループ

E-mail iruma@npo-kajikyuryo.net URL <http://www.npo-kajikyuryo.net>

## 創立15周年を祝して

入間市長 田中 龍夫



NPO法人加治丘陵山林管理グループが創立15周年を迎えたことに、心よりお慶び申し上げます。またこれまでの加治丘陵の保全活動にご尽力賜り深く感謝申し上げます。

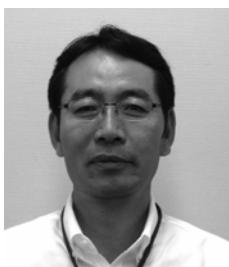
平成5年から加治丘陵の公有地化に取り組み、平成10年3月に入間市加治丘陵保全・活用基本計画（加治丘陵さとやま計画）を策定し、本市のまちづくりの基本方針の一つである『縁につつまれたまちづくり』を推進しています。計画策定から20年が経過するところですが、この間、様々な課題を抱えながらも108.7haを公有地化しました。これからも行政の責任として、しっかりと加治丘陵の自然を未来の子どもたちに継承していきたいと考えております。

加治丘陵は、私の毎朝のウォーキングコースでもあります。木々の緑、鳥のさえずり、四季折々の自然を満喫しています。本当にいいところだなあと感じていますが、まだ一度も訪れたことがないという方も多いです。もっと気軽に加治丘陵の自然を体験していただけるよう、活用面での取り組みを推進し、自然の恵みを共有したいと思います。

貴法人の取り組みは、堅実な歩みを続けております。多くの方からの賛同を得て、高い評価を受けており、今後も継続的な活動が行われると期待しております。これからも、加治丘陵の保全には、会員の皆様のお力添えが必要となりますので、引き続きご尽力いただきますようお願いいたします。

結びに、貴法人のますますのご発展と会員の皆様のご活躍を祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。

## 創立15周年記念号の発刊を祝って 入間市都市整備部長 高橋 健一



NPO法人加治丘陵山林管理グループの皆様には、日頃から山林管理にご尽力を賜り心より感謝申し上げます。またこのたびは創立15周年を迎られましたことお慶び申し上げます。

市では加治丘陵の貴重な自然を市民の共有財産として、保全・活用に取り組んでいます。私にとっても、加治丘陵は幼少期の遊び場であり、慣れ親しんできた場所で、印象としては、明るく、怖くない場所だったと記憶しております。加治丘陵は、長い間地域の人々の生活と深く関わりを持ってきた「里山」です。しばらく手が入らず放置された状況でしたが、貴法人を始め、多くの方の活動が実を結び、以前の環境が戻りつつあると感じています。

第6次総合計画においても、市民にとって住みやすさが実感できる緑豊かなまちづくりをめざし、加治丘陵の恒久的な保全に取り組むこととしており、保全・活用の施策を推進していきたいと考えております。現在、公有地化の面積は、108.7haとなり、「加治丘陵さとやま自然公園」についても今年度は「自然探勝路」などの整備を予定しており、公園開設に向け準備を進めています。

貴法人には、山林管理の中心的な役割を担っていただいております。今まで培ってきた経験や技術を活かし、引き続きご支援、ご協力を願い申し上げます。

最後に会員の皆様のご健勝とご活躍を祈念し、お祝いの挨拶といたします。

# 創立15周年を迎えて お礼ご挨拶

理事長 大山 博



平成14年に創立した当グループは、本年15周年を迎えました。この間幾多の困難に直面してきましたが、木下 博前入間市長、現在の田中龍夫市長をはじめ、多くの関係者各位のご指導や、初代理事長小澤盛久会員、第2代理事長清水徳三会員、第3代理事長山畠 博会員の歴代理事長、役員各位、賛助会員、及び正会員の皆様から格段のご支援、ご協力をいただき、これまで無事故で経過してまいりました。心から感謝申し上げます。

この間、入間市との「加治丘陵の環境整備、保全に関する委託契約」を締結し、確固たる基盤を構築してまいりました。上場企業各社から総額400万円に及ぶ助成金をいただき、軽貨物自動車や動力機械40台も備付けられ充実した体制を整えることができました。賛助会員31社、正会員195名を数え、内外からの高い評価を得て、大きな組織となっています。

今後も会員同士の親睦を深め、数多くのイベントを開催しながら、業務管理、事務管理、人事管理の3つの柱のバランスを保ち、グループの健全な運営を進めてまいります。

無理せず、あせらず、ゆっくりとの作業スローガンのもと、作業安全第一を徹底し、地域社会とのふれあいの場をつくり、100年後の子供たちのために、入間市唯一の里山「加治丘陵」を守っていきます。15年間の永きにわたるお力添えに心からのお礼と、これからも続く当グループに対し、絶大なるご支援をお願いしてご挨拶申し上げます。

## 加治丘陵山林管理グループ発足の経緯 会員No.11 山畠 博



平成14年4月初代理事長を務めた、小沢盛久氏の呼びかけで、金子公民館のロビーに同氏の知人・友人が10名ほど集まった。

議題は、加治丘陵山林の現状説明とその対応についてであり、一同共鳴するものがあった。二度目の会合の後、市で保有している山林と、永年放置されている山林を視察。公民館に引きあげてきた一同、今後の対応を話し合い、週1~2回実習することを決めた。機械・道具類は金子の農村環境改善センターにある刈払機2台と携帯用鋸、鎌などを借用することが決まった。金子公民館に集合し、当面は実習して複数で、30分交代で作業、安全な作業をしているか監視員を交代で務めるなどを打ち合わせした。実習の場所は加治丘陵全般にわたり、広範囲なことに驚くとともに、使命感も湧きあがった。

作業とは別に扇町屋公民館で週一回、会の名称・運営・組織などについて話し合った。当時、山林活動のボランティア団体としては珍しいN P O法人化するため、障害者移送業務の団体を訪問して、運営・申請方法などについて教えを受けた。埼玉県庁へ申請手続きに何度も通った小沢・武藤・大山氏、助力いただいた齊藤県議ほかの熱意により、法人化されたわけで、グループの基礎がこれにより固まったと言える。

数年間、市保有地の山林で実習を積み重ねた後、会の永続性を考慮、会としての運営費、参加者の交通費・労務費について市当局と会の代表で数回話し合いが行われ、現状の形となった。残る課題は会の事務所であったが、山洋電気会長の山中洋忠氏の所有する建物の地下一階の空間を交渉の末、借用することが出来た。しかも同会長が自身で事務室の改良を行い、水洗トイレ、空調設備など現状のように仕上げてくれた。会としての支払いは最低の家賃と電気料のみで、これも当グループに対するご厚意として感謝申し上げたい。また同時期、市内山林管理団体のため農村環境改善センター入口付近の山林に、市の予算でウッドハウスを建てていただいた。使用については各グループの自由だが、機械道具類の保管が出来、仕事の前の打ち合わせや点呼、体操など安全作業に欠かせない拠点となった。

思いつくまま当時の記憶を記したが、時代が代わり人が代わっても後継者の手により、当グループが益々発展されますよう願っております。

# NPO法人の設立は本当に良かった

会員No.7 石本 勝彦



NPO法人加治丘陵山林管理グループの創立15周年、心よりお祝い申し上げます。

平成14年、私が市会議員だったころ、小沢さん（初代理事長）から定年退職した人たちが加治丘陵の市有地で何かできることがないだろうかという相談がありました。そのころ加治丘陵は残土置き場や霊園開発などの話があり、当時の木下市長はこの丘陵の保全のために市で買い取る市有地化の方針を決定し、里山計画を策定していました。小沢さんにNPO法人を設立して市有地の管理や整備に参加するようにしてはと話したところ大変興味を示され、齊藤県議に相談したところ、県から資料を取り寄せていただき、あっという間に設立に向けての準備組織ができる扇町屋公民館で勉強会が始まりました。当時NPO法人の設立は市内でも事例が少なく、設立当初のメンバーの皆さんには大変苦労されたことと思います。現理事長の大山さんを始め、行動力のある素晴らしい人材が集まつたことや齊藤県議が県とのパイプ役になっていただいたことなどが短期間で設立できた要因であったと思っています。

それから15年、素晴らしい活動を目のあたりにしてNPO法人を設立されて本当に良かったと思っております。

約400ヘクタールの加治丘陵は観光資源、社会教育、市民の憩いの場として大変魅力ある入間市の資源財です。まず、市民が加治丘陵に行きたくなるような魅力的な環境整備をお願いしたいと思います。NPO法人加治丘陵山林管理グループの今後の活躍に大いなる期待をしています。

## 作業部門の15年振り返る

作業担当副理事長 菱川 浩次

私が入会した平成16年当時は金子公民館の裏の物置小屋を集合場所としておりました。平成17年に現在の場所に管理事務所が完成し移動しました。

当時は機械設備も十分ではなかったが一年ごとに充実し、安全で丁寧な作業実績を残してきたためか、徐々に信頼を得て年々仕事量も増えてきました。下草刈り、危険木処理、そして伐採は日没近くまで作業したことありました。伐採作業は当時の清水理事長の指導により、多くを学ばせていただきました。その技術は未永く伝承して行かなければならぬと思っております。

最近は間伐したヒノキの丸太材を利用した遊歩道の階段・木道橋・土留め工事、道標・ベンチの設置などの作業もますます増えています。そして、これらの作業に関し多くの知識と経験を持った会員が増え、仕事の幅を一層広げているところあります。今後も加治丘陵の整備の一端を担っていけることを喜びとして頑張っていく所存であります。

しかし、最大の問題は作業出席者の平均年齢が73歳という高齢者集団であることです。今は退職した団塊の世代の会員が中心となっていますが、その後の後継者をどれだけ入会させ、どのように育てていくかが今後の私たちに与えられた大きな課題と考えています。

最後にこれからも安全作業に注意し、加治丘陵の自然を守るべく力を合わせて努力して行きたいと思いますので、皆さまのご協力を切にお願いします。

## 総務部門の15年振り返る

総務担当副理事長 山西 素直

入間市の住民になって30有余年、加治丘陵に足を踏み入れたことが無かった私でしたが、定年後近所の先輩に誘われ入会しました。

入会当時は、無償ボランティアでしたが、2年後ぐらいに、作業時間に応じて作業活動費が支給されるようになりました。ある時、突然総務班長を命ぜられ慌てて業務に必要なパソコンとFAXを購入し、定款、会員情報、理事会議事録などすべての情報をPCにコピーし、次に活動費算出の入力から帳票出力までの作業についてご指導を仰ぐため前任の総務班長のお宅へ日参しました。当時は手作業でしたから、データの訂正をすると、誤ってAさんの支払い分がBさんの行に書き込まれたりし、慣れるまで大変な思いをしました。今は、データ入力さえ間違えなければ欲しい帳票がすぐ手に入ります。思えば隔世の感があります。時にはアナログのころを懐かしく思ったりしています。

# 創立15周年記念総会の開催

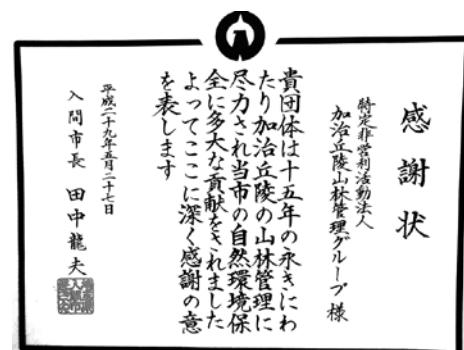
平成29年5月27日（土）市民会館13：30～

例年のように山西副理事長の司会により進行。出席会員74名、委任状提出会員94名計168名で総会成立。

大山 博理事長の挨拶に続いて、ご来賓の田中龍夫入間市長、大野松茂元衆議院議員、横田淳一入間市議會議長、大塚 拓衆議院議員秘書東山 徹様、齊藤正明・杉島理一郎埼玉県議会議員、木下 博入間市名誉市民、荻野喜美雄入間ケーブルテレビ取締役社長、大野明男埼玉県西部地域振興センター所長、高橋健一入間市都市整備部長、佐藤輝武埼玉りそな銀行入間支店長がそれぞれ紹介された。

次に議長に山畠 博会員を指名、大山理事長の平成28年度の事業報告と当グループの現況についての報告があり、続いて議事に入った。第1号から6号まで活動計算書・貸借対照表・財産目録及び各種積立金計上案、本年度の計画予算の各議案につき宮坂右二会計班長・大山理事長よりそれぞれ説明があり、清水徳三監事より会計監査報告がなされ、滞りなく満場一致で承認された。

続いて記念総会行事として田中市長より当グループに対し感謝状が贈呈された。また歴代理事長（初代小沢盛久会員・第2代清水徳三会員・第3代山畠 博会員）の3名に感謝状と花束が大山理事長より贈呈された（下の写真参照）。その後、各来賓のご挨拶をいただき引き続き講演会に入った。



## 記念講演会の開催

講師 入間市長 田中龍夫様

〔テーマ〕 「50周年を終えて新たなスタート」

〔要旨〕 第6次の入間市総合計画にもとづき「香り豊かな緑の文化都市」の建設に邁進して行きたい。

公共施設の統廃合には今後30年かけて整備していく。耐震化については小中学校はすべて完了したが、中央公民館と市民会館さらに市庁舎については数十億円の費用を要するため慎重に検討中。「加治丘陵さとやま計画」も“緑の文化都市”としての重要なテーマだが、人が集まり呼べるような里山にしたい。そのためには貴グループの協力が大きな力となる。

バス路線なども整備して、住みよい町、元気な子どもたちが育つ町づくりを目指していきたい。



# 記念祝賀懇親会の開宴

総会・講演会に引き続き、多数のご来賓と会員計105名と過去最多出席者の記念祝賀懇親会となった。

ご来賓代表として田中市長、賛助会員代表として株式会社いわさきの岩崎茂会長のご挨拶の後、乾杯の音頭を賛助会員宮寺会計事務所の税理士宮寺成人所長のご発声により開宴。

余興としていつもの竜晨会会長成田竜晨会員・山畠博会員による民謡、早乙女昌代・鈴木千代・大和田美枝子会員による「江戸芸かっぽれ」に加えて、今回初めて東藤沢公民館で活動しているフラダンス・チーム「リリーズ」の8名が参加し、より華やかな彩りを添えた。後半は来賓・会員も一緒になってハワイアン・メロディーに乗って踊り、時の経つのも忘れる盛況な懇親会であった。



## 平成29年度作業実績と予定 副理事長・作業班長 菱川浩次

### 上期実績

下草刈り：75,202m<sup>2</sup>、伐採：1,068本、木道橋2本、土留め：2か所（13m・6m）

- 『花見の丘』の作業がいよいよ始まりました。立ち上がりはまずまず順調に推移、下草刈り、雑木ヒノキの伐採及びその皮むきは全体の約1/3が終了。
- 『自然探勝路』は木道橋と土留め作業が完了。

### 下期予定

下草刈り：約20,000m<sup>2</sup>、伐採：約150本、土留め10m1本、丸太橋1本、階段約250段、道標8基が予定されている。

- 年度内には南と北コースを結ぶ自然探勝路の完成に全力を尽くす。
- 花見の丘は引き続きヒノキの伐採と皮むきを実施。  
全員、協力しながら安全第一で進めて行きましょう。

## 都市計画課との意見交換会

7月19日 イルミン

理事会に先立ち本年度の意見交換会合が開かれた。なお、今年度より加治丘陵の担当は、都市整備部都市計画課となった。

出席者 都市計画課長 瀧澤良生様、同副主幹 山田明弘様、同副主幹 坂口穣様  
当グループ 大山理事長ほか副理事長、理事全員

大山理事長、瀧澤課長の挨拶のあと、本年度以降の山林管理業務委託につき坂口副主幹より提供された資料をもとに丁寧な説明がなされた。

平成20年に改訂して策定された「加治丘陵さとやま自然公園見直し計画」にもとづき、自然公園施設整備として具体的に動き始めており、自然探勝路は今年度内に完成。花見の丘は人が集まる最適な場所で5年ほどの長期計画ですすめたい。今年はヒノキ伐採などの土地整備から始めたが、具体的にどんな植生にするかはこれから。山桜やモミジ、ツツジなどの苗床を今から用意しておくべきか。従って、当グループとしても人目につかない所にあるそれらの苗を探しておくべき、などの意見が出された。



# NPO法人 加治丘陵山林管理グループ 15年の歩み

平成14年	2月	加治丘陵の保全・整備を目的としたグループ設立の趣旨を入間市当局に説明し、了承を得て作業開始。名称を「NPO法人加治丘陵山林管理グループ」と定める。
平成15年	3月	NPO法人設立の認証を受け6月設立総会及び記念式典を入間市産業文化センターにて開催。
	9月	バスにより奥多摩御岳地方に森林視察研修→以後毎年継続中。
平成16年	1月	入間市と「加治丘陵保全業務」に関する業務委託契約を締結。
	6月	第2回通常総会開催（入間市市民活動センター・イルミン）。広報誌「加治丘陵だより」を創刊。
	7月	南峰実習地に設置した虫床で「親子カブトムシとり大会」開催、47名参加→以後平成28年まで毎年実施。
平成17年	4月	「加治丘陵さとやま管理事務所」を入間市農村環境改善センター敷地内に市が建設。作業拠点を金子公民館から移転。
	6月	第3回通常総会開催→以後平成26年までイルミンにて。
	11月	入間市消防署の指導のもと、救命救急講習会開催→以後ほぼ毎年1回は機械操作などを含めた安全教育講習会を継続実施。
平成18年	4月	作業中の無事故徹底のため「安全委員会」を設立。広報手段として「ホームページ」を開設。
	6月	第4回通常総会開催。
平成19年	5月	入間市より無償ボランティア保全整備区域として、南真込谷に4600m <sup>2</sup> の提供を受け「ふれあいの森」と名付け整備開始。
	6月	第5回通常総会を創立5周年記念総会として開催。小沢盛久理事長が退任、清水徳三理事を新理事長に選任。
	7月	当グループの事務所を前理事長宅から仏子1397-3（武藏野音大前）に移設。
平成20年	6月	第6回通常総会開催 趣味の会として「楽山ゴルフ会」発足→以後年2回継続開催。
平成21年	6月	第7回通常総会開催。正会員207名、刈り払い機14台、チェーンソー11台と充実。
平成22年	6月	第8回通常総会開催。
	10月	よもぎ新道沿いの危険木伐採開始、以後南・北コース住宅付近の危険木・枯損木の伐採作業増加。
平成23年	6月	第9回通常総会開催。
	9月	東日本大震災に会員有志より義援金191,000円を寄付。セブンイレブン記念財団の助成金で作業用軽貨物自動車を買い替え。
平成24年	3月	「山仕事の広場」オープン。
	6月	第10回通常総会を創立10周年記念総会として開催。木下市長の記念講演。清水徳三理事長が退任、山畠博理事を新理事長に選任。
平成25年	6月	第11回通常総会開催。10月 都市緑化機構による「緑の都市賞」の会長賞を受賞。
平成26年	6月	第12回通常総会開催、山畠博理事長が退任し、大山博事務局長を新理事長に選任。
平成27年	3月	「彩の国埼玉県環境大賞」の優秀賞を受賞。
	6月	第13回通常総会開催（以後会場を入間市市民会館とする）。
	9月	森林視察研修を始めて都内の明治神宮と代々木の杜に行く。
平成28年	4月	安全教育研修会を入間市健康福祉センターにて「日常業務の安全研修、高齢者は如何に健康管理を進めて行くか」のテーマで。
	6月	第14回通常総会開催。
	12月	忘年会（市民会館）78名出席、市政50周年で市から表彰された38名中、当グループ会員が木下博名誉市民ほか7名おり全員に花束贈呈。
平成29年	5月	創立第15周年記念総会開催、田中市長より「感謝状」を賜る。また、歴代の3理事長に感謝状と花束を贈呈。記念講演会は田中市長。祝賀懇親会はフラダンスなどあり、100名を超す参加者あり大盛況。
	7月	都市計画課との意見交換会あり、「加治丘陵さとやま計画」の自然公園施設として「自然探勝路」「花見の丘」の整備を開始。
	10月	「加治丘陵だより」15周年記念第27号発刊。

## 新入会員ご紹介

会員番号 氏名（敬称略） （9月30日現在）

481 鈴木 豊士／482 岩浅 芳雄／483 向口 文恵  
484 大野 彰／485 井上 貞子／486 村岸 慶子

## 入会のお誘い

=会員になって活動を支えて下さい。=

- 我々はボランティアで活動しています。
- 195名の会員が汗を流して頑張っています。
- 年会費 正会員（個人）2,000円  
賛助会員（会社又は団体）1口10,000円
- 加入連絡先 04-2932-4515（大山 博）

〔寄稿文〕

## 社長継承時の苦悶《後編》

賛助会員 (株)いわさき 会長 岩崎 茂



零細企業の求人募集の難しさは、昔も今も変わらない。葬祭業(株)いわさきの人材集めは事業経営第一の課題であり、これが解決できれば、より一段上への成長が期待できるのだが…。

平成7年10月、折込みチラシの社員募集に2～3人の応募があった。その中の一人はスーパーの惣菜専門店としての出店の会社で、エリア・マネージャーを勤めた男。面接の終盤で「ご質問は?」と聞くと、「岩崎社長の将来ビジョンを社員にはどのような方法で伝えているのか?」と問われた。そこで「10年ほど前より会社の経営計画を作り、社員にもこの作成に係わってもらっているので、各自に目指すべき会社の将来は理解されていると思う」と答えた。彼が柔道の有段者というのも気に入ったが、質問内容からこの男の本気度を知ることができて即時採用を決めた。

この男が、現在当社の代表取締役鎌田泰由である。新入社員鎌田の勤務ぶりには目を瞠るものがあった。葬祭業は究極の接待業といわれる。その対応ぶりは新人でありながら、先輩社員を大きく引き離すレベルになるのに、そう年数を必要としなかった。その結果、入社から10年を待たずに彼は専務として活躍するまでに成長したのである。私が67歳の年にロータリークラブ、地域商店街、倫理法人会などの理事長、会長職などが重なったことがあった。そのため、このまま私が社長職に留まることは、お客様にも社内にも不誠実になると思い、社長の継承を決心。2年後の10月1日を就任の日とするこれを鎌田に伝えた。彼は熟慮の結果、これを受け入れてくれた。それからというもの日々の実務に、また後継社長塾などに参加し、積極的に学んでくれたのである。

しかし、いよいよ社長就任の日まであと5ヶ月と迫った6月中旬、私の心に何か抑え難い変化が沸き起こってきた。「私が社長のままで、鎌田には当分副社長となつてもらうか…」心の奥の何とも言えないモヤモヤは、社長を退くことの未練、新社長となる鎌田への嫉妬心、やっかみ心、それらが入り乱れ、就任を目前にして卑怯な決心に傾いたその直後である。手許に1枚のFAXが送られてきた。私の所属する経営者の教育機関「倫理研究所」からだ。そこには神奈川県の食品会社会長の体験が記されていた。私と同じ迷いの淵から脱して、後継社長に託した結果、今日の繁栄に至ったという。それはまるで私の心の内を映し出した内容が綴られていたのである。もしこれを見ずに誤った決断をしたならば、今日の激しい業者間競争の中、会社は存続し得ただろうか。二昔前の古びた経営感覚で指揮をとっていたなら、会社は消え去っていたのではと思えてならない。あれはまさに、天の啓示であったのではないかと思えるほどの出来事であった。人の縁、モノの縁によって助けられた私は、縁の不思議さ、縁の有難さをしみじみと感じています。

〔リレー随筆〕

## 今日このごろ思うこと

会員No.430 理事 中川 滋



付度とは相手の気持ちを慮る、推し量るという意味だが、政治的なことで使われると胡散臭く不正のイメージがある。元来、日本人は付度する民族だと思う。ある外国人が来日した時のこと、どこかで現金百万円とパスポートの入った財布を落としてしまい、途方に暮れた。ダメ元で警察に相談したら、そっくりそのまま届けられていたそうだ。そのことに感動した彼は日本が大好きになり、この国へ移住すると決め、そして日本人の女性と結婚して幸せに暮らしている。

外国では落し物は神様からの贈り物という考えがあって、拾った人が警察に届けることは少ないといいます。私たち日本人は落し物を拾ったら落し主のことを付度して警察に届ける。正直で真面目な行きをするということを遠い祖先から受け継いで来たのだろう。これは世界に類を見ない素晴らしい民族だと思う。

地震、台風、火山噴火、洪水など災害大国のわが日本。しかし、その災害のたびに人々は絆を深め団結し、さらに優しくなっていく。TVでボランティアが被災地で働いているのを見ると忸怩たる思いに駆られる。そんな今日この頃、加治丘陵の保全作業を蕭々とやらせてもらっている。

# グループ活動に参加して

## 会員No.480 嶋村 完治



丸太担ぎ・丸太運び・丸太転がし。長さ160cmぐらいか、直径は10~20cm、太いものは30cmぐらいのものもあった。重たいが担ぐことはできた。ところが、何と私より年上に見える人が、軽々と担いでいるのです。初参加の私は無理だとも言えず、先輩をまねてなんとか担ぐだけであった。

仕事は丸太を尾根の上から150mほど下の谷筋までの移動であった。ほとんどは転がしたが要所要所は人力で方向を変え、最後は担いで一ヵ所にまとめ積み上げて納めた。全部で160本ぐらいだろうか、20人ほどで完了した。

これが森林ボランティアの私の初仕事であった。私の定年まえの仕事は肉体労働ではなく、むしろ事務職に近い。しかし、登山が趣味で山スキーもやっている。自然相手の楽しさもあり、私でも出来るだらうと思い入会した。それなりに覚悟はしていたが、最初から丸太担ぎにはいささか参った。そして私より年配の人々がそれをいとも簡単にやり遂げているのには驚いた。このグループには強い強い頑健な高齢者がいるものだと思いました。

## 会員No.472 高木 昭



私は四国の徳島で生まれ育ちました。当グループの平均年齢より高く、健康面からも体力的にも多少の不安がありました。田舎育ちで緑の野山の自然の保全整備活動という趣旨に賛同し、いくらかでもお手伝いして協力できればと入会しました。

先輩の方々が、時には過酷な作業もありますが、元気で一生懸命に黙々と働いておられる姿に感心して驚くとともに、深く尊敬するばかりです。

皆さまの足手まといとなりそうですが、よろしくご指導のほどお願いします。

## 【訃報】会員No.419 小林 五郎さん 6月11日ご逝去



武蔵野音大付属幼稚園内(都内)で大木伐採の監視をしていたところ、倒木の際の接触事故により亡くなりました。享年82歳。当グループに対しては過去に総会議長、総会後の「加治丘陵40年」と題した講演、本誌への寄稿文、写真の提供など種々ご支援をいただきました。また毎朝、加治丘陵の散策を日課とされ、この里山に深い愛着を持っておられました。心よりご冥福をお祈りします。

(追記) 8月12日(土)市民会館3Fにて「追悼 小林五郎様を偲ぶ会」が当グループ主催・市写真連盟後援により執り行われました。田中市長・木下前市長、武蔵野音大関係者ほか50名が出席、厳粛の中にも故人の遺志を汲んで明るく楽しく行されました。

## イベント結果報告

- 森林視察研修 9月3日(日) 秩父方面  
大型バスにより38名参加。宝登山周辺散策、長瀬ライン下りを満喫。浦山山荘にて昼食懇親会。
- 暑気払い(納涼花火の夕べ) 7月26日(水)  
彩の森公園、36名参加。雨もあがり5:30~21:00まで楽しい夕べを過ごした。
- 楽山ゴルフ会コンペ 4月27日(木)シルクCC  
15名参加。吉野行男会員がハンディに恵まれ優勝。
- 第6回入間市環境フェア 10月1日(日)産業文化センター2F

## イベントお知らせ

- 入間万燈まつり 10月28日(土)・29日(日)  
出店場所 茶の花通り(自衛隊フェンス沿い)No.160  
今回も2ブースにつきテント内の席に余裕あるため、ぜひお立ち寄りください。
- 楽山ゴルフ会コンペ 11月8日(水)  
美里ロイヤルGC 詳細配布済み案内通り
- 忘年会 12月23日(土) 市民会館

～編集後記～ 15周年記念号につき倍の8ページにしました。写真などもっと載せたかったが割愛しました。原稿提供者に感謝するとともに、思うような枠取りが出来ずお詫びします。  
(編集委員長 小林貞治郎)